

中学歴史プリント (過去問類似)

古墳時代

名前

得点

/10

問1 古墳時代における渡来人の活動と、日本社会に与えた影響について述べた文として、正しいものはどれか選びなさい。 (2021年)

和歌山公立入試 類似)

- 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。
- 九州北部の防衛のために東国から派遣され、唐や新羅による侵攻に備えて沿岸を警備した。
- 中国の優れた制度や文化を吸収するために日本から派遣され、小野妹子らがその代表である。
- 平安時代に地方の政治が乱れる中、自らの土地を守るために武装し、後の武士の源流となった。

問2 5世紀初めから約1世紀の間になされて行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。 (2024年)

山口公立入試 類似)

- 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている
- 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている
- 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した
- 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った

問3 3世紀後半から古墳時代にかけて造られた、円形の後円部と方形(四角形)の前方部を組み合わせた、上空から見ると鍵穴のような形をしている古墳の名称を答えなさい。 (2018年 長崎県公立入試 類似)

- 前方後円墳
- 円墳
- 方墳
- 積石塚

問4 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌(きんぞうがん)によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。 (2024年 大阪公立入試 類似)

- ワカタケル大王
- 卑弥呼
- 聖徳太子
- 中大兄皇子

問5 5世紀から6世紀にかけて、日本列島には大陸から多くの人々が移り住みました。この時期の遺跡である前方後円墳などからは、円筒埴輪や人物埴輪とともに、高温の窯で焼かれた硬くて灰色をした土器が出土しています。この土器の製作技術を日本に伝え、さらに文字や儒教、仏教といった高度な文化をもたらした人々を何と呼びますか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)

- 渡来人
- 防人
- 遣隋使
- 語部

問6 5世紀の日本において、大和政権が広範囲を支配していたことを示す証拠として、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣があります。この鉄剣には表面に金象嵌(きんぞうがん)で文字が刻まれており、そこに見られる、当時の大和政権の王を指す名称として正しいものを選びなさい。 (2014年 和歌山公立入試 類似)

- 聖徳太子
- ワカタケル大王
- 卑弥呼
- 中大兄皇子

問7 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣(きんさくめいてっけん)が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。 (2016年 三重公立入試 類似)

- 稲荷山古墳
- 江田船山古墳
- 大仙陵古墳
- 箸墓古墳

問8 5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。 (2026年 高知公立入試 類似)

- 渡来人
- 倭寇
- 朝鮮通信使
- 防人

問9 3世紀後半から奈良盆地を中心に成立したヤマト政権において、各地の有力な豪族を従えて中心となった指導者が当時名乗っていた称号として、適切なものはどれですか。 (2026年 和歌山公立入試 類似)

- 大王
- 天皇
- 将軍
- 執権

問10 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳(大仙陵古墳)のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものととして、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)

- 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権(ヤマト王権)の権力が強大化した。
- 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。
- 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。
- 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆を大規模な土木作業に動員できるようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。	当時の日本にはなかった高度な知識や技術を持っていた人々に関する記述です。彼らが伝えた「須恵器」は、従来の土師器よりも高温で焼かれた硬い陶質土器であり、生活様式の変化をもたらしました。また、文字（漢字）の導入により、行政や外交などの記録が可能になり、大和政権の組織化が促進されました。
問2	答え 1 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている	5世紀、ヤマト王権は当時の中国の南朝（宋など）へ朝貢を行っていました。中国の歴史書には、讃・珍・済・興・武という5人の王が記録されており、彼らが軍事的な称号や政治的地位を求めていることが記されています。他の選択肢は、3世紀の邪馬台国、7世紀の遣隋使、あるいは7世紀以降の遣唐使に関する内容であり、時代背景が異なります。
問3	答え 1 前方後円墳	古墳時代を代表する墓の形式であり、円形と方形を組み合わせた独特の形状が特徴です。当時の有力者の権力の大きさを示す象徴として、近畿地方を中心に全国各地へ広がりました。
問4	答え 1 ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。
問5	答え 1 渡来人	5世紀から6世紀の古墳時代、朝鮮半島からの移住者である渡来人は、それまでの日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。土器においては、従来の土師器（はじき）とは異なる、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成する「須恵器（すえき）」の技術をもたらしました。また、漢字を用いた記録や、道徳的な教えである儒教、さらには6世紀に百済から伝えられた仏教など、その後の日本の国家形成に不可欠な知識を普及させました。
問6	答え 2 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌によって「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」の名が刻まれています。この王は『日本書紀』や『古事記』に登場する雄略天皇にあたる考えられており、5世紀ごろの大和政権の強力な支配力を示す重要な史料となっています。
問7	答え 1 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問8	答え 1 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問9	答え 1 大王	ヤマト政権の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。「天皇」という称号が正式に使われ始めるのは7世紀後半の天武天皇・持統天皇の時代からであるとされており、それ以前の古墳時代における指導者の呼称としては「大王」が適切です。
問10	答え 1 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。